

会議録

会議の名称	令和8年度 第1回 西東京市青少年問題協議会
開催日時	令和8年4月17日（金） 午後2時から午後3時15分まで
開催場所	田無第二庁舎4階 会議室2・3
出席者	出席委員：池澤会長、高松副会長（座長）、井上委員、今井委員、川村委員、下田委員、鈴木委員、田村委員、西原委員、平井委員、古家委員、星委員、山崎委員 事務局：遠藤子ども若者部長、菱川子ども若者応援課長、越川子ども若者応援課子ども若者計画係長、園田子ども若者応援課子ども若者計画係主事、吉尾子ども若者応援課子ども若者計画係主事
議題	協議事項 活動テーマに係る調査について
会議資料の名称	会議次第 資料1 西東京市青少年問題協議会委員名簿 資料2 活動テーマ及び調査について 資料3 青少年問題協議会における過去の調査先 資料4 西東京市青少年問題協議会専門部会員名簿（案） 資料5 青少年問題協議会 第13期スケジュール案
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
○会長： 令和8年度第1回西東京市青少年問題協議会を開催する。 協議事項 ○副会長（座長）： 前回2月9日の協議会で、第13期の活動テーマが「多様化する子どもの『居場所』を知る・考える」に決まった。 本日は、資料2及び資料3を参考に、今後どのように調査していきたいか、テーマを考えるためにどのような調査が必要か、調査方法や調査先について協議したい。 ○井上委員： どんな青少年でも社会で活躍できる場があるとよい。 子どもが活躍できる居場所づくりについて聞きたいと思う。特に中高生の考えをもっと知りたいので、学校の生徒会と意見交換会等ができると良い。不登校などの悩みがある子どもの考えも聞いてみたいと思う。 ○今井委員： 子どもの本音を広く知るために匿名のアンケートをとり、深く知るためにヒアリングを行えると良い。小学生には、安心でき守られていると感じる場所について、中学生には、どこにいるかよりも誰といるのが居場所と感じるのか、高校生には、役割や意義を感じる場所について聞きたい。 ヒアリングについては、近隣の高校や公民館に勉強に来る高校生、スクールカウンセ	

ラーや養護教員、スキップ教室の先生等に協力を得られると良い。

○川村委員：

子どもの居場所づくりは、非行防止の観点からも大切なことだと考えるが、場合によっては、子どもが集まり問題行動を起こす場にもなり得る。

単に居心地が良いというだけではなく、居場所の定義についても、専門部会で議論してもらえると良いのではないか。

調査先については、学校に依頼したりSNSを利用したりして幅広く行うとともに、詳しく聞きたいことはヒアリングができると良い。

○下田委員：

居場所の定義を明確にして聞くことが大切だと考える。子どもがどのような場所を求めているのか、学校に協力してもらい広く意見を聞けると良い。小中高生で質問の内容を変えるのも良いと思う。

○鈴木委員：

中学生の居場所づくりのために歩け歩け会を実施しているが、近年はあまり中学生が集まらない。最近の中学生はどこに居るのか、何を求めているのか、10年前とは異なる現状について、知りたいと思う。

調査については、学校の負担が少なくなるように、市立学校で既に実施しているアンケートに質問を付け足してもらうのはどうか。座談会等に来てくれた子どもへ参加記念品を用意する等、参加してもらうための工夫も必要だと思う。

○副会長（座長）：

私の経験でも、学生向けのアンケートでもクオカード等の特典があっても、回答率が10パーセント以下であったりするので、ある程度の強制力を持った方が良いと思う。話を聞きたい人に、どう座談会等に参加してもらうのかも課題である。場合によっては子どもではなく、そこで働く大人に聞くというのも考えられる。

○田村委員：

小中学校へのアンケートは今までに市で実施していると思うので、学校以外の場所で、特に中高生の考えを聞いてみたいが、その方法が難しいと思う。

市の施設に勉強に来る子どもや、児童センターに来る子どもの意見を聞く等、数は少なくなるかもしれないが、色々な子どもの声を聞けると良いと思う。

○副会長（座長）：

中高生が来る場所と時間帯を綿密に考えておく必要があると思う。上手く調査を設計することが大切だと思う。学校以外で調査をできると良いのではないか。

○西原委員：

青少年問題協議会で「知る」だけでなく、方向性を持って「考える」ことも大切だと思う。

小中学生は、子ども・若者審議会でアンケートを取っているのだから、それを見ると良い

と思う。高校生は、市民まつりや公民館で事業に協力している方もいるので、このような場に来ている子どもにヒアリングしてみてもどうか。周りの大人については、子ども食堂等新しい取組を行っている方に、子どものことを聞いてみるのも良いと思う。

また、公民館では、中高生が事業企画に携わっていて、子どもが学校以外の場所で活動しているので、そのような所で現状を知るのも良いと思う。

○平井委員：

アンケートやヒアリングを行うのは良いと思うが、それだけで良いのか、という点が気になる。調査の結果を持って、子どもにとって良い環境づくりを検討できると良い。

学校でアンケートも取られていて、それを基に市の計画の方向性が決まっていると思うので、子どもと関わる学校や施設側の職員の方にアンケートを取れると、子どもとそれを支える人の両方を含めて考えて行けると思う。

○座長：

アンケートには、子どもに関わる大人の意見も聞けるとよい。既に市が実施しているアンケートが充足しているのであれば、子どもへのアンケートは実施しなくても良いかもしれない。

○古家委員：

私の立場から見ると、多くの子は「人と関わりたい気持ち」を持っているが、特定の親しい人以外の人と、どうやって関わればいいのかかわからないという場合があるようだ。SNS上での関係性も難しいところがあるのかもしれない。

「場所」というよりも、人間関係が保てるような仕組み作りやサポートができるといいのではないかな。

○座長：

子どもの居場所を調査する上で、人間関係について聞いていくことも大切だと思う。

○星委員：

子どもにとっては、物理的な場所より、その場所の環境や対人関係が大切だと感じた。

また、この協議会で現状を知り、考えるだけではなく、調査を踏まえてその先をどうしていくのが大切だと思う。

私の立場からすると、アンケートで回答のあった内容だけでなく、アンケートに参加しない子どもや回答できなかった子どもの書かれなかった内容に問題点があるのではないかと考える。

子ども食堂に来る子どもより、来ない子どもの居場所が問題なのではないかな。

夜の繁華街に集まる子どもは、明確な目的はなく、なんとなくそこへたどり着いてしまい、大人の目の届かないところで、事件に巻き込まれてしまうこともあるだろう。

協議会としては、このような視点があることも知ってほしい。

○座長：

最終的に報告書をまとめてどうするのかという点が大切だと思った。

先ほど夜の街に集まる子どもの話もあったが、研究者としては、そのような場合、現場で何年も一緒に体験しないと、そこに集う子どものことは知ることができないということがある。

また、SNS上のアラートを拾うということも重要なかもしれない。アンケートを実施する際には、プライバシーに配慮し、子どもが自分のスマホから回答できると、直接では話しにくい子どもも答えやすいのではないかな。

○山崎委員：

私の立場としては、人権相談となると、かなり重い話になってくる。

相談に来る子が言うのは「何をしてくれるの？」ということだ。何ができるのかは、その子の成育歴、考え方にもよっても変わるので難しい。

アンケートで98%が拾えるとしても、残り2%は拾えない。今の子は、SNSで自分の意見を発信するというよりは、チャットGTPに聞いて、答えをもらって発信するような例もある。

やはり、まとめ方としては、調査したその先まで考えないといけない。

高校生の世代は、ボランティアや社会活動をしたいと思っている子どもの感覚を伸ばしていくことも重要だと思うので、そのような子どもたちが取り組みたいと思い、興味を持ってくれるような結果をまとめられると良い。

○座長：

我々協議会の調査の限界を知ること、第一歩かもしれない。知って、考えて、それをどうしていくのか、という視点が必要だと思う。

調査方法と調査先の希望がまとまってきたと思うので、事務局には、調査実施に向けて調整をお願いする。

○座長：

専門部会員については、資料4のとおりとして良いかな。

(異議なし)

○座長：

それでは、専門部会員については、今までどおり資料4のとおりとする。

事務局から、専門部会での調査の進め方など、今後のスケジュールについて説明をお願いします。

○事務局：

今後のスケジュールについて、資料5に沿って説明。

7月の専門部会については、後日ご連絡させていただく。

○座長：

以上で令和8年度第1回青少年問題協議会を終了する。

閉会